

報道関係者各位

## 「Arts Towada」10周年をむかえ、新体制のご案内 十和田市現代美術館 館長交代のお知らせ

十和田市現代美術館の館長・小池一子は、2020年3月31日をもって館長職を退任することとなりましたのでお知らせいたします。新たな館長には4月1日付けで、金沢21世紀美術館で長年キュレーターを務め、数々の展覧会、国際展でキュレーションを手がけてきた、鷺田めるろが就任いたします。

鷺田は、金沢21世紀美術館開館の立ち上げから関わり、同美術館のシンボルとも言えるレアンドロ・エルリッヒ《スイミング・プール》など常設作品の設置を担当。開館後は「金沢アートプラットホーム2008」など、まちなかの展覧会を含む多くの現代美術や建築の展覧会・プロジェクトを企画してきました。また、金沢21世紀美術館在籍中、「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」(2017)で日本館のキュレーションを行い、国際的にも活躍しております。2018年に独立し、フリーランスキュレーターとして「あいちトリエンナーレ2019」で主にまちなかの展示を手がけました。

新体制となる2020年、十和田市現代美術館を中核とするアートによるまちづくりプロジェクト「Arts Towada」が完成してから10周年を迎えます。「Arts Towada」は、十和田市のシンボルロードである官庁街通りをひとつの「美術館」に見立て、多様なアート作品を展開してきました。鷺田はこれまで地域をテーマにした展覧会・プロジェクトを数多く手がけ、まちとアートを繋ぐ活動を行ってきたことから、十和田市においても、まちと美術館との連携を尚一層促進していくことが期待されます。10周年という節目、十和田市現代美術館は新体制の元、十和田市の美術・文化のもっとも象徴的な拠点として精力的に活動し、日本国内のみならず海外諸国へ向けてこれからも現代アートの魅力を発信してゆきます。

この度退任となる前館長・小池一子は、十和田市現代美術館開館の構想段階から専門委員として携わり、2016年度より館長に就任、十和田市の文化振興・発展に尽力して参りました。小池がキュレーターを務めた「On the Beach ヨーガン レール 海からのメッセージ」(2016)、「横尾忠則 十和田ロマン展 POP IT ALL」(2017)では、アートを多方面から捉えることで、私たちの意識や暮らしの身近には常にアートがあるということ、展覧会を通して多くの人が体感しました。小池は退任後、十和田市現代美術館パートナーズ(TAPS)特別顧問として、これからもアートの面白さを地域のみなさまに伝えてゆきます。

尚、十和田市現代美術館学芸統括・金澤韻も3月31日をもって退任し、後任は館長・鷺田が兼任いたします。

### 鷺田めるろ (わしだ・めるろ) 略歴

1973年京都市生まれ。東京大学にて西洋美術史を学ぶ。開館5年前に金沢21世紀美術館建設事務局に着任、同館の立ち上げに関わり常設作品の設置などを担当。2004年の開館後、「妹島和世+西沢立衛/SANAA」(2005)や「金沢アートプラットホーム2008」、イェッペ・ハイン(2011)、島袋道浩(2013-14)の個展など数多くの展覧会、プロジェクトを企画。また、日本におけるアートプロジェクトの先駆例の一つである鶴来現代美術祭に関する調査研究も行う。金沢21世紀美術館在籍中、第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーターに選出される(2017)。2018年独立し、フリーランスキュレーターとして、あいちトリエンナーレ2019キュレーターなどを務める。2020年2月より十和田市在住。

撮影：小山田邦哉



### お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

## 館長就任にあたり鷲田めるろより

十和田市現代美術館は、国際的な作家による、大規模な常設作品が特徴です。常設作品によって人を呼べる、国内でも数少ない美術館の一つです。この魅力を引き継ぎ、さらに磨いてゆきます。

また、十和田市現代美術館は、まちと繋がる美術館です。この考え方は、外からガラス越しに中の作品が見えるユニークな建物や、官庁街通り全体を美術館に見立て、屋外作品を設置する「Arts Towada」計画に示されています。こうしたハード面だけでなく、ソフト面でも、美術館を出て、まちを舞台に、市民とともに展開する活動を、開館以来積み重ねてきました。2021年には、官庁街通りと中央商店街の交差点に地域交流センター（仮称）も開館する予定です。これからも十和田市現代美術館は、まちとの繋がりを大切に、地域コミュニティの結節点としての役割を果たしてゆきます。

さらに、開館以来、海外を含む多くの観光客が訪れるようになりました。弘前れんが倉庫美術館の開館や八戸市美術館のリニューアルも間近に控え、青森県はアートの集積地としての注目度が高まっています。十和田湖や奥入瀬溪流に代表される豊かな自然とともに、「アートの街」として、十和田の魅力を広く発信してゆきます。

## 退任にあたり小池一子より

十和田市現代美術館は日本の美術館の中でも有数の入場者数を誇るほど国内外のみなさまに愛される存在になりましたが、その理由は大きな自然環境と好ましい美術館建築、そしてさまざまなアート作品にあります。私の在任中の喜びは、この街の子供たちもまたそれを知っていて表現に結びつけてくれるということでした。巨大な《スタンディング・ウーマン》を驚きとともに描いたり、アート広場では水玉いっぱいの草間作品と遊んで歌をつくるなどのことが起こりました。子供たちの心の原風景にアートがなんらかのしるしを残せるとしたら、それは素晴らしいことだと思います。

美術館から広がっていく感性の波は地域の魅力をつくることにも繋がります。サステナブルで革新的、文化を発信し続ける街、十和田への夢はつきません。お世話になったみなさま、ありがとうございました。



### 十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティスト33組の作品38点を常設展示。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもからおとなまで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができる。

所在地：青森県十和田市西二番町10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com

### お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com